

◇-----◇
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2011. 10. 17

下水道機構の『新技術情報』 第17号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇

久々にふるさと沖縄の姉へ電話をしてみました。すると娘と一緒にビーチで遊んでいるとのこと。北海道では例年より早い初雪、秋の気配ただよう東京、残暑の沖縄。日本列島って本当に南北に長～いんですね。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第17号をお届けします。

業務に、Tea Breakにご活用ください。

■□■□トピックス□■□■

★インフォメーション

・10月13日(木)の技術サロンは、国土交通省河川情報企画室の五道室長をゲストにお招きし、「XバンドMPレーダの整備、活用」をテーマに開催しました！

・IWA-ASPIR (IWA アジア太平洋地域会議)・10/2～6 に東京国際フォーラムで開催されました。

★機構の動き

・今週は、平成23年度技術マニュアル活用講習会【大阪会場】(10月21日(金)13:00～17:00@大阪科学技術センター)が開催されます！

★Tea Break

・お彼岸に冬の訪れを感じて・・・(研究第二部 駅伝2年目挑戦者さんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

★国からの情報

・10月13日付け下水道ホットインフォメーションです

インフォメーション (最新の話です)

○10月13日(木)の技術サロンは、国土交通省河川情報企画室の五道室長をゲストにお招きし、「XバンドMPレーダの整備、活用」をテーマに開催しました！

今回のゲストは、国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川情報企画室長の五道仁実さん。主に河川分野を経験され、平成22年7月から現在の職務(雨量、流量、洪水予報等の河川情報システムに関する施策等)を担当されています。

今回のテーマは、「XバンドMPレーダの整備、活用」です。金沢市浅野川等のいわゆるゲリラ豪雨による浸水被害の発生を契機として国土交通省で整備が進められ、平成22年7月から情報の一般配信が行われています。当機構ではリアルタイム雨水情報ネットワークの共同研究において、このXバンドMPレーダの活用も含めた研究を進めています。

ご講演内容は、近年の降雨の特徴に始まり、XバンドMPレーダの特徴とその活用等についてでした。既存のCバンドレーダに比べて時間で5倍、面積で16倍という分解能の高さ、地上雨量計の存在しない地域でも面的に雨量を把握可能なこと、強い降雨時には複数のレーダで観測、合成できるよう整備を進めていること等について、各種データ、動画や図表を用いて分かりやすく説明していただきました。昨年度の自治体へのアンケートでは、気象警報・注意報が発表されたときに使われ、降雨状況の監視に活用していきたいとの声が多かったそうです。また、エリアの拡大、数値情報のデータ提供、スマートフォン等への対応といった要望があったそうです。特に数値情報は現在研究用への提供ですが、その拡大が検討されているそうです。関東地域や六甲山系等における社会実験、降雨予測の高度化検討も進められており、浸水対策等への活用が今後一層期待されます。最後に、下水道にも関係のあるCommonMPについてのPRがありました。これらの施策等で下水道、河川の両分野が一層連携していきましょうとの呼びかけがありました。

さて、次回の技術サロンは11月10日の第二木曜日です。時間は17:00から18:00までの1時間。下水道関係の予算を担当する国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道事業課の植松町村下水道対策官をお招きして、「下水道事業予算」をテーマにサロンを開催する予定です。

参加申し込みは機構ホームページからお願いします

→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-298.htm>

●IWA-ASPIR (IWA アジア太平洋地域会議) が10月2日(日)~6日(木)に東京国際フォーラムで開催されました。

メインテーマは、「持続可能な水供給・循環システムの実現を目指して」で、22のセッションでの口頭発表、ポスターセッション、9つのワークショップ、展示会がありました。下水道機構からは「汚泥管理・資源リサイクル」の「汚泥有効利用」セッションでタイトルは「State of Acceptance of Biomass by Wastewater Treatment Plants in Japan」です。内容は、「下水処理場でのバイオマス(生ごみ当)受け入れマニュアル」の成果である生ごみやし尿等のバイオマスと下水汚泥の混合メタン発酵施設の導入検討手法についてです。

「汚泥管理・資源リサイクル」セッションは、日本からの発表が中心で、台湾、韓国、中国

からの発表がありました。全体では、マレーシア、インド、ベトナム、インドネシア、シンガポール、オーストラリアなどアジア太平洋の各地域からの発表がありました。

機構の動き (機構の行事予定です)

●10月21日(金)13:00~17:00

平成23年度技術マニュアル活用講習会(大阪会場、場所：大阪科学技術センター)

●10月24日 13:30~16:30

下水道機構事業報告会@アイビーホール(東京都渋谷区)

●第55回新技術セミナー

11月18日(金)13:00~16:45 東京会場@発明会館

11月25日(金)13:00~16:45 東京会場@大阪科学技術センター

参加申し込みはこちら→ http://www.jiwet.jp/school/school-02_055.htm

★10月15日(土)~19日(木) WEFTEC2011(米国ロサンゼルス)

当機構から4名が参加し、下水汚泥からのリン資源化技術開発、下水道設備の診断技術開発、下水道管路の技術開発、浸水対策の技術開発について口頭発表(1人)、ポスター発表(3人)を行います。

★10月17日(月)18:00~20:00 バイオマス・地球環境保全勉強会(場所：日本大学大学院(市ヶ谷)) 当機構研究第一部の森田部長が出席し、「東日本大震災を教訓とした下水道の危機管理について」講演します。

Tea Break (機構職員の感じるまま)

●お彼岸に冬の訪れを感じて・・・(研究第二部 駅伝2年目挑戦者さんからの投稿です)

「暑さ寒さも彼岸まで」昔の人はよく言ったもので、今年も9月のお彼岸に夏の終わりを感じました。(昨日はととても暑かったですが・・・)

夏の装いで寝ていたせいか、秋を通り越して冬の訪れを体感し、少し早いですが下水道業界では有名な「下水道職員健康駅伝」が頭に浮かびました。つらく、そしてその名の通り健康にいてくれる下水道駅伝。

昨年度初めて出場し、第一走者として2週(3.2km)走りました。2日間くらい筋肉痛が続き、これはイカンと一念発起し、当時、定期的に走り、健康を体感していた記憶があります。現在は走っていませんが、今の健康は間違いなく下水道駅伝のおかげだと思います！私が所属する研究第一部では、2月の大会に向けて、今週末からトレーニングを開始する予定です。今年は箱根駅伝経験者や日頃からマラソン大会に出場している研究員が在籍しており、ボスを筆頭に「今年は！」と部内で盛り上がっています。

昨今の健康ブーム、マラソンブームで、本メルマガ読者にも多くのランナーがいらっしゃると思います。大会での上位入賞、健康増進など、目標・目的は様々と思いますが、暑い冬に向けて頑張りましょう！

みなさまのコラム（皆様からお寄せいただいた情報です）

●掲載情報募集中！

機構の新技术情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。
情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としていますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。

下水道ホットインフォメーション（2011.10.13 付、国からの最新情報です）

送信元：国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸

10月2日の朝日新聞 GLOBE に面白い記事が載っていました。世界最大規模の地熱発電地帯である米国カリフォルニア州「ガイザーズ」では、発電能力の増大とともに蒸気の減衰（減少すること）が問題に。そこで 1997 年以降、サンタローザ市の下水処理場から約 65km のパイプラインを通じて毎日 45,000 トンの下水処理水をガイザーズに送り、地熱貯留層に注入する「リチャージ」をしているそうです。この処理水が、発電能力を 10 万 kW ほど押し上げているとのこと。下水にこのようなリサイクルの方法があるとは!?

今週は、国総研、横浜市、リン資源リサイクル推進協議会事務局から情報を頂いてます。

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○下水道地震・津波委員会を開催します【下水道事業課】

○管きょ劣化データベースを公開しました【国土技術政策総合研究所】

●『横浜デイ』イン Smart City Week2011～世界に誇る横浜のスマートなまちづくりを知る日～【横浜市政策局共創推進室】

●第6回リン資源リサイクルシンポジウム プログラム決定！【リン資源リサイクル推進協議会事務局】

=====

○下水道地震・津波委員会を開催します【下水道事業課】

下記のとおり第4回を開催します。

日時：10月17日（月）13:30～

場所：日本下水道協会5階大会議室

議事（予定）：下水道BCPのあり方、東日本大震災における広域支援状況

※議事は非公開ですが、会議の冒頭カメラ撮りは可能です。

※会議資料、議事概要は後日ホームページで公開します。

○管きょ劣化データベースを公開しました【国土技術政策総合研究所】

下水道管渠ストックの増大や管渠の老朽化に伴い、現在、国土交通省の下水道長寿命化支援制度に基づく長寿命化計画の策定に多くの都市が着手しています。各都市では、計画的な改築及び維持管理計画の策定のため、TVカメラ調査により管渠の劣化状況を把握し、このデータを元に将来の管渠の劣化進行を適切に予測するための健全率予測式の作成を試みています。しかしながら、多くの都市では、保有するTVカメラ調査データが極めて少ないため、正確な健全率予測式を作成することが困難な状況にあります。

そこで国土技術政策総合研究所では、研究の一環で過去に収集したTVカメラ調査データを公開することとしました。長寿命化計画策定やアセットマネジメント研究の基礎資料として活用いただければ幸いです。

詳細については、下記URLをご覧ください。

<http://www.nilim.go.jp/lab/ebg/>

●『横浜ダイ』イン Smart City Week2011～世界に誇る横浜のスマートなまちづくりを知る日～【横浜市政策局共創推進室】

10月27日（木）に「横浜ダイ」を開催し、横浜市と市内企業が持つ技術・ノウハウ、それを活かした環境やまちづくりに関する取組をご紹介します。多数の企業、行政関係者の皆様のご参加をお待ちしています。入場無料ですので、ぜひご参加ください。

日時：10月27日（木）14:00～17:30（開場13:30）

場所：パシフィコ横浜会議センター1階 メインホール

（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

参加費：無料／事前申込制・先着順（座席に余裕のある場合、当日参加可能）

申込方法：下記ホームページをご覧ください

<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/kyoso/forum/>

事務局：横浜市政策局国際技術協力課（奥野・中村・正岡）

E-mail ss-ccfy@city.yokohama.jp

TEL 045-671-4396

プログラムの特徴：

- ・横浜の経済、大学、行政分野を代表する識者によるオープニング。
- ・横浜市の海外展開や環境分野を代表する事業について、日揮、JFE エンジニアリング、東芝などの企業とともに具体的な取組事例を紹介。

(Y-PORT事業、横浜スマートシティプロジェクト、横浜スマートコミュニティー、海外水ビジネス支援)

- ・スマートグリッドなどの環境に配慮したまちづくりを支える市内中小企業の技術・取組を紹介。

(当日のプログラムの詳細は、「横浜デイ」申し込み WEB ページに掲載のリーフレットをご覧ください。)

↓「SmartCityWeek2011」に関する情報は

<http://expo.nikkeibp.co.jp/scw/2011/>

↓Y-PORT 事業に関する情報は ('Y-PORT'で検索)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/kyoso/yport/yport/>

●第6回リン資源リサイクルシンポジウム プログラム決定！【リン資源リサイクル推進協議会事務局】

第6回リン資源リサイクルシンポジウムのプログラムが決定しました。お申し込みは下記URLにて。

http://jora.smallworld.jp/press/jora_pdf_files/201110072121.pdf

日時：平成23年11月17日(木) 13:00～16:45

会場：主婦会館プラザエフ(東京都千代田区六番町15番地)

JR四ッ谷駅 麴町口前より徒歩1分

東京メトロ南北線/丸ノ内線 四ッ谷駅より徒歩3分

http://www.plaza-f.or.jp/access_index.html

テーマ：「世界のリン資源事情と国内におけるリン資源リサイクルの取組」

講演：Thermphos社(オランダ)ーヨーロッパにおける回収リンからの黄リン製造について

三菱商事ー世界の肥料原料事情について

財団法人廃棄物研究財団ーし尿・浄化槽汚泥からのリン回収・利活用について

東京都下水道局ー東京都におけるリン資源リサイクルの取組について

地方独立行政法人岩手県工業技術センターー岩手県におけるリン資源リサイクルの取組について

=====

【参考情報】

◆那珂久慈浄化センター焼却灰、搬出再開検討へ セシウム基準下回る <10/7 茨城新聞>

http://ibarakinews.jp/news/news.php?f_jun=13179069257562

◆紋別で初の「下水道フォーラム」、地方の下水処理在り方考える <10/7 北海民友新聞>

http://www.minyu.ne.jp/digitalnews/111007_1.htm

◆下水処理エコ化 新技術◇高知大 <10/8 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/kochi/news.php?k_id=40000001110080002

◆県内2万5千トン 埋め立て進まず 福島 <10/8 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/fukushima/news.php?k_id=07000001110080002

◆下水処理場見学に子供ら興味津々 埼玉・荒川水循環センター <10/8 MSN 産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/111008/stm11100818280005-n1.htm>

◆20年度までに温室ガス18%削減へ／高松市 <10/9 四国新聞>

http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/administration/20111009000106

◆汚染土壌除去 中間貯蔵施設の設置が急務だ <10/10 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/editorial/news/20111009-OYT1T00768.htm>

◆8000ベクレル超、国が処理＝放射能汚染の廃棄物で基準＝環境省 <10/10 朝日新聞>

<http://www.asahi.com/politics/jiji/JJT201110100028.html>

◆汚泥・焼却灰 どう処分悩む自治体 <10/12 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/gunma/news.php?k_id=10000001110120004

◆下水道事業の手引 平成23年版 好評発売中

http://www.suido-gesuido.co.jp/blog/info/2011/06/post_34.html

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方は

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせは

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

